

# 心理学総論特論 研修会レポート

心理学部 講師  
修士（人間科学） 新井雅人

1月30日（土）の心理学総論特論の授業にて、中島総長先生に心理学総論特論の進め方についてご指導をいただきました。前々回の授業にて、参考書を使用せず、教科書のみで進める方法についてご教示いただきましたので、教科書の下読みをして、過去問と解説部分だけではわかりづらいと思われた部分についてのみ、できるだけ短い言葉で捕捉する準備をいたしました。これについては、学生にはできるだけ簡潔でわかりやすい言葉で捕捉をした方がよいと思われましたため、事前に少し考えておきました。

また、教えていただいております、学生のためになる授業をすること、明快で効果的な授業を行うこと、受験のための授業であることを心がけて進めました。

授業の流れとしましては、まずは問題文を学生に読ませ、次いで解説の方にその設問の重要性について書かれた箇所のある形の教科書でしたので、その部分を読ませる。受講生に拍手を求め、次いで選択肢をひとつ読ませ、次には行かずにその選択肢についての解説を読ませる。そこで解説の長さにより、30秒から45秒を取り、もう一度よく読んで理解して暗記するように伝え、教員はタイムキーパーを行う。これを選択肢の数だけ繰り返したのち、その設問全体について、もう一度よく読んで理解して暗記するための時間を3分から5分取る。という形で進めさせていただきました。総長先生にご指導いただいていたこの形式について、少し慣れて参りました。

驚かされたのは、この方法を集中しておこなうと学生の頭が疲れてくるわけですが、それを繰り返し行うことが合格につながるのだということについて、総長先生が信念をお持ちであるということ。をたびたび学生にお伝えになり、それを聞いて学生は安心して取り組めるということです。学生が疲れてきたタイミングなどに集中力を取り戻すアクセントとしても使われていたと感じ、そのような方法も自在に使えるよう、努力していこうと感じました。

また、教員は司会役、勉強するのは学生であるということを明確におっしゃられていたことです。上記のようなことや、スムーズな指示には気を配る必要があります、教員も気を抜くことはできませんが、勉強するのは学生であるということを改めて強調していただき、教員がすべきこともよりくっきり見えて参りました。